

# 健康のひろば

—12—

## 地元の医師がアドバイス

主人（65歳）のことですが、昨年十一月頃から手足の震えを訴えていたのですが、足全体の動きが緩慢になり、書き物をしていてボールペンを落としたりしています。症状を改善する療法があるのででしょうか。

（下川・主婦）

☆

手足の震え、動作の緩慢がある場合、それらの症状からはいくつかの病気が考

えられるのですが、最も可能性の高いものとして「パーキンソン病」という病気が疑われます。

パーキンソン病というのは、手足の震え、動作緩慢、筋肉のこわばり、立ったり歩いたりする時に生じるバランスの不安定さといった症状が表れるのが特徴です。さらには手指の不器用さ、顔の表情の乏しき、前屈みの姿勢、小声、足のすくみといった様々な

症状を伴います。この病気の人では原因は不明ですが、中脳というところの、さらに黒質という部分に存在するドーパミン産生細胞という神経細胞が脱落していることが明らかになっていきます。そして脳内のドーパミンの不足によりなめらかで素早い動きができなくなることが症状のもとになっていることがわかっています。

現在の日本では有

病率は十万人あたり約百二十人で、平均発症年齢は七十歳前後と言われています。

診断のためには先に述べたような症状の有無を診察することと、頭のMRIや血液検査といった通常の検査では異常がないことを確認する必要があります。

何故ならパーキンソン病とよく似た症状でも違う病気がいくつもあり、例えば脳梗塞後遺症の一つとして同様な症状が

表れたり（パーキンソン病と区別して「脳血管性パーキンソン症候群」と呼びます）、ある種類の薬や、中毒や脳炎の後遺症によっても似たような症状を起したりすることもあるからです。

さらに、パーキンソン病と同じく原因は不明ですが、パーキンソン病のような症状に加えて他の症状を伴うやや進行の早い病気もあり、その場合は画像で脳がやせているのを認め

ることもあります。パーキンソン病においては多くの治療薬が開発され、治療の手段は昔に比べて格段に進歩をとげました。またリハビリテーションも薬物治療と同様に重要な治療となっています。一度神経内科を受診され、診察を受けることをお勧めいたします。

（名寄市立総合病院  
神経内科出張医・旭  
川医科大学神経内科  
医・油川陽子）

## パーキンソンの疑い